

『すぐできる、

ラボ内での口腔内スキャナー活用法』



泉 慶亮

歯科技工業界におけるもデジタル化の定着により、その恩恵は計り知れないものがある。さらに、口腔内スキャナー（以下IOS）を用いたデジタル印象採得が一般化することで、加速度的に生産効率を上げると予想される。しかし現状に目を移すとまだまだ石膏模型を用いた技工作業が主流である。そこで、歯科技工の一環として用いたIOSによる時短製作方法、つまり模型分割やトリミングを不要とするCAD/CAM冠の制作方法であるスマート法^{注1}を試み、そこから得たIOS導入時の選定から模型スキヤニングの要点、さらにはスマート法に不向きな症例なども含め発表する。

参考：

注1) 藤原芳生「月刊歯科技工 特集 歯科技工所にIOSが必要な理由」,医歯薬出版株式会社,2022年9月,836ページ

【略歴】

2002年3月 広島県立宮島工業高等学校 卒業

2008年9月 有限会社 奈良デンタルタイコニウム 入社

2018年3月 新大阪歯科技工士専門学校 夜間部 卒業

2020年4月 同社 代表取締役就任 現在に至る